

アジア三言語における代名詞代用・呼びかけ語の共通項目調査

岡野賢二¹ 野元裕樹¹ スニサー ウィッタヤーパンヤーノン(齋藤)¹ トゥザライン¹ 春日淳²
 okanok@tufs.ac.jp nomoto@tufs.ac.jp sunisa@tufs.ac.jp thuzarhlaing@tufs.ac.jp kasugaat@kanda.kuis.ac.jp

1 東京外国語大学 2 神田外語大学

概要

本研究の目的はいくつかのアジア諸言語における代名詞代用と呼びかけ語の使用実態を把握し、その共通点や相違点を明らかにすることである。対象言語は日本語、韓国語、マレーシア語、インドネシア語、ジャワ語、ベトナム語、タイ語、ビルマ語である。代名詞代用に用いられる語彙は言語ごとに差があるため、これらの言語間で共通して用いられる語彙を抽出し、記述することとした。

本稿ではそのうち東南アジア大陸部の言語であるタイ語ⁱ、ベトナム語ⁱⁱ、ビルマ語ⁱⁱⁱについての共通項目の調査結果について報告する。

1 代名詞代用・呼びかけ語

代名詞代用 (pronoun substitutes) とは代名詞ではない語を用い一・二人称代名詞と同様に話し手・聞き手を指し示すことであり、呼びかけ語 (address terms) とは会話において聞き手を同定し、その注意を引くために使われる語である。

例えば「お母さん、お母さんのお兄ちゃんの名前、何だっけ？」(野元他 2021:64) という日本語の発話内に二度「お母さん」が使われているが、はじめのものは呼びかけ語であり、もうひとつは代名詞代用である。英語では呼びかけ語には“mom”, “mommy”などの語彙が用いられるが、二人称代名詞の代用としての用法を幼児語以外では持たないとされる。

代名詞代用に用いられる語彙には親族名称、職業名、固有名などがあるが、一般名詞の中にも敬称を添えることで使えるようになるものもある(「学生

さん」など)。

また「お姉さん」のような親族名称が親族関係^{iv}がない場合にも用いられる、いわゆる虚構的用法もまた非常によく見られる代名詞代用の一現象であるが、その範囲は言語により様々である。例えばビルマ語の *nilé* 「(男性にとっての) 弟」やタイ語の *nóy* 「弟/妹」、ベトナム語の *em (tra)* 「弟」は代名詞代用、呼びかけ語として用いることができるが、日本語では話し手よりも年下の親族名称を用いることはできない。

さらに代名詞代用が可能な言語において、代名詞代用の語彙と呼びかけ語の集合の重なりは大きいことが知られている。

このような現象は日本語ばかりでなく、東アジアから東南アジアに分布する言語に非常によく見られる現象であり、個別言語記述研究や語学書等ではしばしば言及されている。しかしながらこのような現象を通言語的な観点から包括的に記述しようとした調査・研究は野元他 (2021) 以外、管見の限りない。

代名詞代用についての記述が十分でないことは翻訳や外国語学習において深刻な問題を引き起こす。前述の日本語の例をそのまま英語に「入れ替える」なら、二つの「お母さん」は“mom”, “mommy”あるいは“mother”と訳されるであろうが、それでは正しい英語にならない。二つ目は *your* でなければならず、人称の間違いが生じる。逆に英語から日本語に訳す場合には適切な代名詞代用がなければ不自然な文となる場合が想定される。本研究はより正確で自然な(機械)翻訳に寄与するものである。

2 代名詞と代名詞代用

人称代名詞と代名詞代用がどのように違うのかについて、田窪 (1997:14) は境遇性の有無によって説明している。

例えば、二者間で交わされる会話において、A の

ⁱ タイ・カダイ語族、タイ王国の公用語。基本語順は SVO で修飾語は被修飾語に後続する。典型的には孤立的。

ⁱⁱ オーストロアジア語族、ベトナム社会主義共和国の公用語。基本語順は SVO で修飾語は被修飾語に後続する。典型的には孤立的。

ⁱⁱⁱ シナ・チベット語族、ミャンマー連邦共和国の公用語。基本語順は SOV で修飾語は被修飾語に先行する。典型的には膠着的。

^{iv} 本稿における「親族関係」、「親族」等は血縁関係、姻戚関係のいずれも包含する概念である。

発言内における「私」は A 自身を、B の発言内における「私」は B を指す。また二人称「あなた」では、どちらの発話であっても発話者の会話の相手を指す。すなわち人稱代名詞は「話し手がどちらであるかを反映するという性質」を持っており、これを境遇性と呼んでいる。

一方、代名詞代用は一般に境遇性を持たない。上記の例にならば、A の発言内において「お父さん」が A 自身を指すとすれば、B の発話内でも「お父さん」は A を指す。A が発話しようと B が発話しようと「お父さん」が指示する対象は変わらない、すなわち境遇性がない、ということになる。

会話内において特定の人物を指示する語彙が境遇性を持たない、というのは固有名詞（人名）や職業名も同じである。ただ、言語にもよるが、固有名詞や職業名の場合、対称（二人称）や他称（三人称）に用いることでなくても、自称（一人称）に用いることができないなどの制約がある場合がある。日本語の例でいうなら「社長」は対称や他称には用いることができて、通常自称に用いることはできない。

つまり代名詞代用と一言で言っても、語彙によって自称、対称のどちらにも使える場合とそうでない場合があり、また呼びかけに用いることができるかどうか、に異なりがある。また上述のように敬称を添えることによって代名詞代用、呼びかけとして用いることができる場合もある。

本研究を進めるに従い、言語によって代名詞代用・呼びかけとして用いることができる語彙に少なからず差異があることが分かってきた。ただ代名詞代用・呼びかけが通言語的にどのような特徴を有しているかを把握するために、各言語に共通して用いられる語彙について、言語ごとの振る舞いの違いを把握する必要がある。そのため本研究では共通調査項目を設定し、調査をすることにした。

3 共通調査項目

共通調査項目は意味概念（日英語と WordNet synset ID で記述）で、研究対象言語にそれを表す語彙が存在することを条件として選定した。選定した項目は 16 種類 147 項目にわたる。16 分類とその例

^v 「社長（である話し手）が言っていることに従えないのか」など、一見自称のようだが、これは自称というよりは属性を表していると考えた方がよいだろう。ただこれは言語によって異なる可能性もある。

（日本語）は以下の通り^{vi}。分類は Nomoto et al. (2019) の対人関係意味素性に基づく。

表 共通調査項目の分類と例、語彙数

	分類	日本語の例	数
(a)	Age	坊や、お嬢ちゃん、子供、お嬢さん etc.	7
(b)	Family	父、伯母、姉、弟、娘、孫、嫁など	27
(c)	Fictional family	(同上)	27
(d)	Education	先生、教授、児童、生徒、学生、コーチ	6
(e)	Relationship	友達、夫、妻、愛しい人、上司、部下、先輩 etc.	10
(f)	Position	社長、課長、学長、校長、議長、総理大臣、大統領	7
(g)	Service	医者、看護師、運転手、警察官、物売り etc.	8
(h)	Spiritual	僧侶、スルタン、神父、牧師	4
(i)	Royal	陛下、王、王妃、王子、王女	5
(j)	Anaphor	自分、人名+自身	2
(k)	Quantifier	全員、二人、二人とも	3
(l)	Demonstrative	これ/この、これら/これらの、それ/その etc.	9
(m)	Proper name	人名、敬称、人名+敬称、人名+首相 etc.	7
(n)	Modified NP	～のお母さん、あなたのお父さん、 etc.	13
(o)	Misc. (miscellaneous)	紳士淑女諸君、まぬけ、お金持ち（の人）	3
(p)	Personal pronoun		9
計			147

これらの分類は収集した各言語のデータから抽出し、取捨選択した。本稿執筆時点（2022 年 1 月 10 日）で 8 言語で延べ 1629 語が収集されている。以下分類について簡単に説明する。

(a) Age は年齢により呼び分けられる語彙である。

^{vi} 共通調査項目の完全なリストは以下で公開している。
https://github.com/matbahasa/ProSub/blob/main/common_questionnaire.tsv

(b) Family, (c) Fictional family はいわゆる親族名称だが、(b)は実際に血縁・姻戚関係があるもの、(c)はそれがないもので、いわゆる虚構用法である。(a)と(b)は年齢や家族関係において付与されるプロパティである。これらは性別により語彙が異なることがほとんどである(「3. 子供」, 「26. 子」, 「34. いとこ」を除く^{vii})。

(d) Education は教育の場において用いられる身分等を表す語彙、(e) Relationship は社会的人間関係を表す語彙、(f) Position は社会的地位の名称、(g) Service は職業を表す語彙、(h) Spiritual は宗教的な地位・資格等を表す語彙、(i) Royal は王族を指し示す語彙である。(d)~(i)はNomoto et al. (2019)の意味素性体系の中のRole素性の下位区分である。

(j) Anaphor, (k) Quantifier, (l) Demonstrative (指示詞) は人そのものを指示するのではない文法的な語彙である。(m) Proper noun は単独で用いられるものばかりでなく、人名+敬称(田中さん)や人名+お姉さん(慶子お姉さん)などを含む。(n) Modified NP は修飾部を持つ名詞句で、修飾部には属格名詞(おばあちゃんの孫)、直示(そこのあなた)、形容詞(美しいお姉さん)、関係節(熱のある人、課題をまだ出していない人)を設定してある。

(o) Misc.は(a)~(n)に分類できないものである。また(p) Personal Pronoun は代名詞代用ではないが、共通調査項目を考察する上で基準となること、また自称形式が対称として用いられる場合があったり、呼びかけ等に使うことができる場合があること、言語によっては人称代名詞に複数の表現があり、それらが閉じたクラスをなしていないと考えられる場合があるため、これを含めた。

4 タイ語, ベトナム語, ビルマ語における共通項目調査結果

共通項目の調査として、特に代名詞代用(自称, 対称)、呼びかけの用法があるかどうか、そしてある場合にはその例文を実例もしくは作例によって収集することとした。以下はスニサー(2021)、春日(2021)、岡野・トゥザライン(2021)の内容をまとめたものとなる。

^{vii} ここに示す番号は共通調査項目におけるID。

4.1 Age

(a) Age について、タイ語は対称と呼びかけのみでの使用に限られる。「3. 子供」については、対象が複数の場合に限られ、繰り返し用法 *dèk dèk* としてのみ使用する。ベトナム語は極めて限定的にしか用いることができない。「3. 子供(10歳くらいまでの年少者, 男女問わず)」が自称、対称に用いることができること、「4. お嬢さん(10代後半から20代前半, 女)」「5. 若い男性(10代後半~20代, 男)」「6. 若い女性(10代後半~20代, 女)」に呼びかけ用法があることのみであった。ビルマ語は呼びかけには一切用いることができないが、すべての項目を自称、対称に用いることができる。

4.2 Family

(b) Family に分類される語彙は、三言語とも自称、対称、呼びかけとしてかなり一般的に用いられる。特に「8. 父」「9. 母」「22. 兄」「23. 姉」「24. 弟」「25. 妹」は三言語でほぼ一致している^{viii}。また両親の兄弟姉妹を表す語彙のも同様である。

ただ「29. 孫」「30. 嫁(息子の妻)」「31. 婿(娘の夫)」「32. 甥」「33. 姪」「34. いとこ」については使用しづらい傾向がみられる。タイ語の場合、「29. 孫」を対称で使用する場合、*lāan* 単独では使用しないが母方の祖父が *lāan taa* 「母方の祖父の孫」と誰の孫かを分かる表現で使用することがある他、呼びかけは対象が複数の場合に限られ使用する際は複数の意味を表す繰り返し用法 *lāan lāan* として使用する。「30. 嫁(息子の妻)」「31. 婿(娘の夫)」「32. 甥」「33. 姪」は、嫌味や怒りといった感情を込める場合にのみ敬称を付けて用いることができる。ベトナム語では冗談として呼びかけに *Con dāu oi* 「お嫁さん」、*Con rē oi* 「お婿さん」を用いることがあるなど、使用可能性は限定的である。ビルマ語は対称としてはすべて用いることができるが、「29. 孫」「32. 甥」「33. 姪」が呼びかけに用いられる以外は使用できない。

なお「34. いとこ」はベトナム語では完全に使用可能であるが、ビルマ語は対称のみ可能、タイ語は親族を指し示すことができない。

^{viii} タイ語の場合、兄弟姉妹 *sibling* については、性別を表す形態を除いた *phū* 「兄/姉」、*nóng* 「弟/妹」の形で可能。

4.3 Fictional Family

(c) Fictional Family (非親族・虚構用法)における語彙は Family の場合と同じで、実際の親族関係にならない人物を指示することができる。

ただ Family とは対照的に「8. 父」「9. 母」は言語によっては使用しづらい傾向が見て取れる。タイ語において例えば友人の父に対して phô+父親の名前=「～父さん」は許容されるが、それ以外のケースでは用いることができない^{ix}。ベトナム語の場合はホストファミリーや、子を持つ親しい友人間で bó / me - con と呼び合う用法があるものの、やはり限定的である。これに対しビルマ語は全く問題なく使用可能である。

また親の兄弟姉妹を表す語彙はほぼすべてが自称、対称、呼びかけに使用可能である。また祖父母についても三言語とも問題なく使用可能となっている。

「53. 子」「54. 息子」「55. 娘」「56. 孫」「57. 嫁(息子の妻)」「58. 婿(娘の夫)」「59. 甥」「60. 姪」「61. いとこ」については各言語での使用可能性についてばらつきが多く、一定の傾向は見られない。Family の場合よりも、さらにその使用可能性が低くなる傾向が各言語においてみられる。タイ語の lúuk chaay「息子」lúuk sǎaw「娘」は前述のとおり悪感情を込めるときのみ親族に対して使用が可能だが、虚構用法を欠く。ベトナム語の con rê「婿」con dáu「嫁」も同様に虚構用法を欠く。ビルマ語の場合は親族に対して使えるが、非親族を指し示す用法としては対称のみを持つ。また三言語すべてで「61. いとこ」は虚構用法を持たない^x。

4.4 その他の分類

上記(a)～(c)以外の分類についても若干述べておく。(d) Education における「62. 先生」に当たる語彙は三言語とも自称、対称、呼びかけのいずれにも使われる。一方「64. 児童」「65. 生徒」「66. 学生」はタイ語で対称、呼びかけに使われる他は使用できない。なお「63. 教授」はベトナム語では他称と呼びかけに使用することができ、ビルマ語は使用できない。

(e) Relationship の「72. 上司」はタイ語とベトナム

^{ix} タイ語では phô+名前で、発話者より年下の若い男性に対して、親しみの意味で使用することがある。

^x なおベトナム語では họ (親類であることを表す)を除いた形ならば使用可能。

語では対称、呼びかけに用いられるが、ビルマ語では用法自体を欠く。「73. 部下」は三言語いずれも使用できない。これは Education の「63. 教授」と「66. 学生」の分布にほぼ一致する。

5 調査結果に対する暫定的考察

(a) Age に属する語彙は今回対象とした言語において一定の傾向は見られなかった。言語ごとに使用できる語彙の範囲や、どの人称に用いることができるか、など、別の言語の調査と合わせて考察する必要がある。

(b) Family, (c) Fictional Family については三言語に共通する特徴が見られた。Family では親、親の兄弟姉妹、自身の兄弟姉妹を表す語彙については、自称、対称、呼びかけいずれもほぼすべてで使用可能である。子を表す語彙、婿、嫁、いとこ等については言語毎にばらつきはあるものの、使用できないケースが見られた。

Fictional Family では Family と異なり、親を表す語彙が使えない言語があるが、祖父母、親の兄弟姉妹、自身の兄弟姉妹を表す語彙については、Family と同様、自称、対称、呼びかけいずれもほぼすべてで使用可能である。子を表す語彙、婿、嫁、いとこ等については言語毎にばらつきはあるものの、Family よりもさらに使用できないケースが多く見られた。いくつかの語彙では虚構用法を持たないものもある。

またすべての項目で成り立つわけではないが、呼びかけの用法を持つ語彙については、その多くが対称としても用いることができる強い傾向があることが観察された。

6 おわりに

最初に述べたように、代名詞代用という現象は言語ごとに記述されてきたが、それを複数の言語で対照することはほとんどなされてこなかった。

本研究は多くの言語のデータを同時並行的に扱うことで代名詞代用という現象についての理論構築を行う基盤を提供するだけでなく、それぞれの語彙についてのより精密な記述を可能にするであろう。また WordNet など、他の言語資源との連携をすることで、本研究で対象としてない言語の記述にも適用できるであろう。さらには機械翻訳、外国語教育といった分野においても、より正確で自然なアウトプットを生成するためのアルゴリズムやアウトプットの評価等への応用が期待できる。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 20H01255 基盤研究(B)(一般)「代名詞代用・呼びかけ表現の通言語学的研究」の助成を受けたものです。

参考文献

ウィッタヤーパンヤーノン(齋藤), スニサー 「タイ語での代名詞代用表現・呼びかけ表現に関する考察」. 『東京外国語大学 東南アジア学』 No.26, 1-23, 2020.

「共通調査項目に基づく調査報告(その1) タイ語」 科研費基盤(B)「代名詞代用・呼びかけ表現の通言語学研究」第6回研究会資料, 2021.

「代名詞代用表現・呼びかけ表現の通言語学的研究における共同調査項目検証結果—タイ語に関して—」. 『東京外国語大学 東南アジア学』 No.27, forthcoming.

岡野賢二, トゥザライン 「共通調査項目に基づく調査報告(その1) ビルマ語」. 科研費基盤(B)「代名詞代用・呼びかけ表現の通言語学研究」第6回研究会資料, 2021.

春日淳 「共通調査項目に基づく調査報告(その1) ベトナム語」. 科研費基盤(B)「代名詞代用・呼びかけ表現の通言語学研究」第6回研究会資料, 2021.

田窪行則 1. 「日本語の人称表現」. 田窪行則編『視点と言語行動』くろしお出版, 東京, 13-44, 1997.

Nomoto, Hiroki, Kenji Okano, Sunisa Wittayapanyanon and Junta Nomura “Interpersonal meaning annotation for Asian language corpora: The case of TUFs Asian Language Parallel Corpus (TALPCo)”. 言語処理学会 第25回年次大会 発表論文集, 846-849. 2019.

野元裕樹, スニサー ウィッタヤーパンヤーノン(齋藤), 岡野賢二, トゥザライン, 南潤珍, スリ・ブディ・レスタリ 「代名詞代用・呼びかけ表現研究の現状: タイ語, ビルマ語, マレー語, インドネシア語, ジャワ語, 朝鮮語」. 『東京:語学研究所論集』 25, 63-78, 東京外国語大学, 2021.